KAPITEL 01

「滋賀県にある琵琶湖の形がオーストリアの形と似ている」ということから、滋賀県とオーストリアの交流が始まった。その後、オーストリア９州の中でも、ブルゲンラント州が琵琶湖規模の湖（ノイジードラー湖）を擁し、地勢的だけでなく、高齢者問題、経済問題、環境問題も似ていることから、滋賀県とブルゲンラント州で友好関係の覚書が交換された。今後も抱えている課題の解決に向けて、双方で意見交換を続けるなど、交流が深まることが期待されている。

KAPITEL 02

ドイツでは、近年、つづりを正確に書けない子供たちが増えていることが指摘されている。つづりミスをその都度減点していけば、子供たちの成績は低下する一途をたどる。「これ以上点数を悪化させないためには、正書法をなくせば（単語をどのようにつづるかは個人の自由にする）いい」という極端な意見も散見される。それは極端だとしても、学校教育の現場では、より良い書き方の指導を強化しつつ、ミスが成績・評価に直ちに影響することがないよう改革が進められている。

KAPITEL 03

2024 年 9 月 1 日に行われたザクセンとテューリンゲン両州の州選挙で、極右政党「ドイツのための選択肢（AfD）」がこれまでで最も高い得票数を得た。ザクセン州で第一党となったのは（34 年間連続で）キリスト教民主同盟（CDU）だが単独過半数には届かず、他の党と連立政権を組まなければならないが、AfD と組む動きはない。テューリンゲン州の第一党は AfD で、こちらも単独過半数には届いていない。AfD と連立を組む党がない以上、テューリンゲン州では第二党の CDU がどこかと連立過半数を目指すことが現実的と見られる。果たして、両州政府の構成はどうなるのか。

KAPITEL 04

かつて一世を風靡したゾウのキャラクターBenjamin Blümchen は、今の時代には受けがよくない。今は、パウ・パトロールなどの犬のキャラクターたちが人気である。時代とともに人気や流行が変わってしまうことはある。グリム説話集などでは、収集された当時の言い回しのままでは気味悪かったり、残酷すぎたりするとして改変されることもある。また、世界観も変容している。肉食のキツネがウサギを追い回すことは現実的ではあるが、それは残酷すぎる、として、キツネを草食に改変する作品もある。しかし現実を歪めてまで現代の感覚に迎合するのはいいことなのか。

KAPITEL 05

まだ食べられる食品を廃棄する、いわゆる「食品ロス」が、多くの国々で深刻な問題となっている。食品ロス問題に対する意識の高まりを受けて、飲食店のゴミ廃棄コンテナの中からまだ食べられる食品を持ち出してそれを消費する活動も出てきた（この行為は違法）。低所得者に廃棄前の食料品を提供する、いわゆる「フードバンク」の取り組みもある。ただし、このサービスを受ける人たち（主に年金生活者、難民、生活保護受給者）が気後れを感じている現実もある。そのような中、登録した商店が、閉店時間が近づくと売れ残りそうな食品を割安で販売することができるアプリが人気である。これは販売活動であるので、誰も気後れすることがない。

KAPITEL 06

2023 年冬あたりからドイツの農家たちの抗議活動やデモ活動が活発化している。ドイツ政府は財政赤字を補うために、農業用ディーゼルの補助金を廃止し、農業車両税を新たに導入するという方針を発表したこともその引き金の一つと言われている。しかし、農家たちの問題意識はもっと深いところにもある。環境・動物保護と称して、農業分野にあまりに多くの規制が課せられてきた。2024 年 1 月 4 日、連邦政府は方針の一部見直しを発表したが、農業用ディーゼルの補助金は 3 年間かけて段階的に削減されることは決まっている。抗議行動は、ドイツ国内だけでなく、フランス、ベルギー、イタリアなどの EU 諸国でも見られた。

KAPITEL 07

2024 年 6 月 9 日、オーストリア航空の航空機が雹の嵐に突入してしまった。機体が激しく損傷しつつも、無事に着陸し、怪我人は出なかった。コックピットクルーによると「レーダーに嵐の雲が映っていなかった」とされる。管制塔では嵐の雲はとらえており、それは機長にも伝えられていたが、航空機搭載のレーダーには映らなかったとすれば、航空機の性能を超えるほどの自然の脅威がそこにあったことになる。「2024 年は激しい気象災害が発生する年になる」と警告していた気象専門家もいる。実際、2024 年の夏は、特にアルプス地方を中心に激しい嵐や大洪水が多発し、航空機だけではなく、市民生活にも大きな混乱を引き起こし、多くの人命が奪われた。

KAPITEL 08

LGBTQIA+コミュニティは、近年急速に認識されてきているが、専門家によるとこれまではトランスジェンダーやノンバイナリーの人々が感じている自己認識に対する適切な言葉がなかったところ、近年では社会の受け入れが進み、情報も豊富になり、より多くの人が自分の感じていることに合った言葉を見つけられるようになったことによるという。それでも、クイアの人々が街中で侮辱的な言葉を浴びせられることは依然としてあり、暴力事件も現実の一部である。2024 年、ドイツでは「自己決定法」が 2 段階で発効する。これにより、トランスジェンダー、インターセックス、ノンバイナリーの人々の権利が統一的に保証されることになる。

KAPITEL 09

ユーロビジョン・ソング・コンテスト（ESC）2024 年大会は「United by Music － 音楽によってひとつに」というスローガンのもとで行われたが、実際にはこれまでにないほど政治的メッセージやデモばかりが印象に残る大会となった。決勝に進んだオランダの歌手が刑事事件の疑いで失格となったほか、イスラエルの参加に抗議が殺到。アイルランド代表歌手は自分の体に古代アイルランド文字で「停戦」「自由」というメッセージを書いた。「音楽によってヨーロッパはひとつに」というスローガンとは裏腹に、実際にはヨーロッパ各国が音楽的だけでなく、特に政治的に分裂していることを浮き彫りにするものとなった。

KAPITEL 10

クリスマスマーケットなどのイベントにおいて著作権で保護された音楽を使用する場合、イベント主催者は GEMA（音楽の著作権管理を行う団体）に使用料を支払う義務があるが、そのライセンス料が大幅に値上がりしたことに対する抗議のため、2023 年のドイツ各地のクリスマスマーケットは BGM の流れない静かなものとなった。GEMA は、「すべての楽曲の背後には音楽家がいる。音楽は、非常に重要な文化財である。集めた使用料はアーティストのために使われている」と説明し、GEMA の役割について社会の理解を求め、同時にアーティストに対する再評価を求めている。ただし、今回のライセンス料改定に際し、関係者への事前の通知が不十分であったことは GEMA も認めている。